

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神崎市立神崎中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全項目おおむね達成することができた。 ・「学力向上」では、授業場面における「対話を重視した授業づくり」の「対話の場面」を各教科の授業の中に意図的に設定することを意識し、知識・技能、思考力・判断力・表現力を育む必要がある。 ・業務改善と超過勤務に削減については、取り組みについて検討の余地がある。
2 学校教育目標	「純美にしてファイトに富む学校」 ～信頼・温もり・スマイル神中～

3 本年度の重点目標	①心の教育の推進 ②授業づくりのステップ1・2・3に基づいた「わかりやすい授業」による学力の向上 ③行事を通した進路指導・キャリア教育の充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者		
(1)共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	学校関係者評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組				実施結果	評価		意見や提言	
●学力の向上	○タブレットを有効に活用した授業の実践	○タブレットを有効に活用して授業を行った教師75%以上	・活用方法に関する情報を、定期的に共有する機会を作る。	C	・教師間および教科で活用に差があり、目標までには至っていない。今後も、有効な活用の情報を共有しながら、目標達成を目指していく。	C	・タブレットを有効に活用して授業を行った教師は70%を下回ったが、タブレットを活用した授業はわかりやすいと回答した生徒は各学年90%となった。英語科や美術科、理科など有効な活用事例も増えてきていることから、今後も継続して取り組んでいく。	B	・生徒の意見をもとに評価を出すべきであり、90%以上の生徒が分かりやすいと回答しているのであれば、B評価でよい。今後はより多くの教師がタブレットを活用するとともに、有効な活用を今後も検討していただきたい。	情報教育推進リーダー 学力向上対策コーディネーター	
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳性アセスメント「HUMAN」の「生命の尊さ」、「相互理解・寛容」の一般的に望ましい道徳的心情を全国平均以上にする。	・TTやローテーション道徳に取り組み、「対話」を重視した授業実践を通して、心豊かで自他を大切にすることができる生徒の育成を図る。	B	・「生命の尊さ」において、1年が全国平均を下回り、2年と3年は全国平均並みであった。「相互理解・寛容」においては、1年が全国平均を下回り、3年は上回っていた。また、3年は道徳的心情、道徳的判断力において、全国平均を上回った。	B	・道徳性アセスメント「HUMAN」では、「生命の尊さ」において、1年が全国平均を下回り、2年と3年は全国平均並みであった。「相互理解・寛容」においては、1年が全国平均を下回り、3年は上回っていた。また、3年は道徳的心情、道徳的判断力において、全国平均を上回った。	B	・アセスメントの結果をもとに、次年度以降も取り組んでほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 各学年主任
		●いじめや差別をなくすよう行動している生徒が90%以上	○いじめや差別をなくすよう行動している生徒が90%以上	○安全・安心に学校生活が送れている生徒が90%以上	・毎月生活アンケートを実施し、相談しやすい雰囲気作りを努める。 ・昼休みの校内巡回を通して、問題行動の未然防止を図る。	B	・2学期末現在において、認知したいじめの件数は12件となっている。毎月の生活アンケートを、タブレットによる回答にしたことで、全職員が情報を共有しやすくなり、相談しやすい雰囲気になってきている。 ・毎日昼休みに校内巡回を行い、大きなトラブルを防ぐことはできている。	B	・いじめ差別のない指導や集団作りに取り組んでいると回答した教員91%となった。 ・安心・安全な生活が送れている回答96% ・生活アンケートを、タブレットによる回答にしたことで、全職員が情報を共有し迅速な対応ができた。	B	・生活アンケートをタブレットによる回答にすることで、早期発見につながっていることは評価できる。
●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した生徒80%以上	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・行事などにおいて、「出番」「役割」「承認」の機会を多く作り出し、過程に焦点を置き、認められる環境づくりに努める。 ・直接話を聞いたり、体験したりする機会を設けることで進路指導の充実を図る。	B	・体育大会や文化発表会など様々な行事を通して、「出番」「役割」「承認」の機会を多く作り出すことができた。 ・3学期に、高校の先輩や地域で働く方々から直接話を伺う機会を設けている。将来の夢や目標につながるよう、取り組んでいきたい。	A	・体育大会や文化発表会など様々な行事を通して、「出番」「役割」「承認」の機会を多く作り出すことができた。 ・生徒は、学年により差はあるものの将来の目標実現に向けて前向きに学校生活に取り組んでいる81%	A	・自己肯定感を高めていくことの重要性を強く感じている。多くの生徒は、礼儀正しく、きちんとしている印象を受ける。	教務主任 各学年主任 各学年特別活動担当	
●健康・体づくり	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・		・		・		
	次の中から1つ以上を選択	④「安全に関する資質・能力の育成」	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・安全担当が、生徒会と連携し、生徒の交通ルールとマナーの遵守に努める。 ・警察署から講師を招き、交通安全教室を実施する。 ・定期的に自転車点検を行う。	A	・2学期末時点において、児童生徒の交通事故はゼロとなっている。それは、生徒会による働きかけや、安全担当の職員を中心とした下校指導の成果であると考えられる。今年度も、計画のとおり交通安全教室を実施し、交通ルールの遵守等に努めた。 ・交通安全教室を実施し、交通ルールの遵守等に努めた。3学期も同様の取り組みを継続することで、目標の達成を図ってきたい。	A	・今年度は、生徒の交通事故はゼロとなった。それは、生徒会による働きかけや、安全担当の職員を中心とした下校指導の成果であると考えられる。今年度も、計画のとおり交通安全教室を実施し、交通ルールの遵守等に努めた。 ・交通ルールやマナーに関するアンケートでは、100%の生徒が肯定的な回答をしたが、ノーヘルや並進など、一部の生徒は交通ルールやマナーを遵守できない場面も見られ、地域の方から指摘を受ける場面もあった。適宜、指導を行うとともに、家庭にも協力を求めながら対応した。	A	・交通マナーやルールを守ることに限っては、個人差があるため、地域でも声かけが必要である。子どもを、家庭・地域・社会で見守っていく重要性を感じている。	安全教育主任 生徒指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・		・		・		
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●会議資料のデジタル化による会議時間と会議資料準備の短縮に努める。 ●掲示板機能を生かした業務の可視化に努め、見通しをもった業務遂行を目指す。	B	・職員会議の資料をはじめ、会議資料のデジタル化は進みつつあり、資料準備も短時間で完了するようになった。また、会議時間も短縮された。 ・Web行事黒板を充実させることにより、職員が見通しをもって業務に取り組むことができている。	B	・職員会議の資料をはじめ、会議資料のデジタル化は進みつつあり、資料準備も短時間で完了するようになった。また、会議時間も短縮された。 ・Web行事黒板を充実させることにより、職員が見通しをもって業務に取り組むことができている。	B	今後も有効な手立てを検討し、実践してもらいたい。	管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○心の教育の推進	○道徳の1人1実践の授業公開を通して、指導力の向上を図る。 ○無言清掃を通して、5つの心の醸成を図る。	○教師全員が道徳の授業を公開する ○授業や無言清掃を通して道徳的な態度や人格を尊重する態度を育てていることに対して肯定的に回答した生徒75%以上	・毎月各学年1名の教師が道徳の授業公開を行い、校内で協議しながら授業力の向上を図る。 ・無言清掃の徹底を図るとともに、清掃前の講話において、5つの心を意識した話を行っていく。	B	・道徳の1人1実践は計画的に進んでいる。また、11月7日には授業公開を実施し、たくさんの先生方に参観いただいた。研究の成果が授業にも表れ、授業も大変好評であった。 ・無言清掃については92%の生徒が、また、道徳的な態度や人格を尊重する態度を育てていることに対しては94%の生徒が肯定的に回答している。	B	・11月7日には授業公開を実施し、研究の成果を発表することができた。しかし、行事等の関係もあり、1人1実践における授業公開を教師全員が行うことはできなかった。 ・無言清掃については92%の生徒が、また、道徳的な態度や人格を尊重する態度を育てていることに対しては94%の生徒が肯定的に回答している。	B		・1年目の研究が順調に進んでいることは評価してよい。 ・無言清掃は、神崎中の伝統として今後も継承していただきたい。
○授業づくりのステップ1・2・3に基づいた「わかりやすい授業」による学力の向上	○授業づくりのステップ1・2・3を意識した授業を行い、特に「対話」の場面を多く取り入れた実践に取り組む。	○授業がわかると回答をした生徒が70%以上	・授業づくりのステップ1・2・3を用いた教科部会や研修の機会を設け、よりわかりやすい授業実践に取り組む。	C	・対話を取り入れた授業はたくさん実践されているが、わかる授業には繋がっていない。小テストなどを通して、基礎・基本の定着を図るとともに、問いの見直しを行っていくことで、対話的な活動の充実を図ってきたい。	B	・授業がわかると回答をした生徒が80%となり、学年が上がることにより、肯定的な回答をした生徒の割合が増えている。これは、小テストなどを通して、基礎・基本の定着を図った成果だと考えられる。しかし、めあての提示等において、統一がなされていないため、次年度の課題としていく。	B	・基礎・基本の定着とともに、「読む力」の育成に努めてもらいたい。	学力向上対策コーディネーター 各教科主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を中心に据え、「対話」を通した授業実践を行い、心の教育の推進を図ることができた。次年度は、「自己対話」の充実を課題として取り組み、さらなる向上を目指していく。 ・学習状況調査の結果から、学力向上においては十分などころまでは至らなかった。そこで、各教科における小テストや単元テストの実施、めあての提示の工夫、タブレットの有効な活用に取り組み、学力の向上を図っていく。 ・今後もいじめの早期発見や交通事故ゼロに取り組んでいくとともに、交通マナーやルールの遵守が全体に浸透するよう、家庭や地域とも連携を図りながら取り組んでいく。
----------------	--